令和３年度　学校関係者評価結果　　令和4年6月6日

学校関係者評価委員		（敬称略）
委員長	西原達次	公立大学法人九州歯科大学　理事長・学長
副委員長	谷川陽一	福岡県立小倉商業高等学校　校長
委員	甲山博美	北九州市商業総連合会　会長
委員	大森弘太郎	九州医療スポーツ専門学校同窓会　会長

評定の意味

４：適切に対応している。課題の発見に積極的で、今後さらに向上させるための意欲がある。
３：ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
２：対応が十分ではなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取り組む必要がある。
１：全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

基準１．教育理念・目的・育成人材像等

平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
4.0	西原達次	4	「教育理念と教育目標」「令和３年度目標と達成計画・取組方法とその結果」は，学校運営の骨格として，明確かつ的確に作り上げられている．	4.0
	谷川陽一	4	菅原道真公が唱えた「和魂漢才」、それに倣い渋沢栄一が説いた「士魂商才」、これらは論語を根底としている。先人は古来から人格形成の基盤として論語を学び、日本人の道徳教育及び精神的な拠り所となった。 これに倣った貴学の教育理念である「士魂医才」は、我が国発展に寄与する医療従事者の必要な技術と専門性を取得させることはもとより、人格の形成にも力を注いでおり、大変優れたものと評価している。 「士魂医才」とは武士の誇りと医療人としての才覚とのことですが、具体的にはどのようなものかご教示いただくことを希望します。	
	甲山博美	4	理念・目的・育成人材像が明確に定められている。	
	大森弘太郎	4	教育目標の中にある、入学者全員の卒業と資格試験合格 別紙の数値も拝見した中で、『進路変更』の言葉が少し気になりました。受験当初この資格取得を目標としていた学生達が 現実や将来を考えたときに、描いていた目標との乖離が 多少ならずともあるのだと感じた。 この進路変更の人数は少ないのか多いのかわからないが 入学以前からの目標の達成に向けて、引き続き生徒との関わりの大切さを感じる。	

基準２．学校運営				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.8	西原達次	3	将来構想を掲げて多様な学科を適正に運用しているなかで，今後は，限られた資源で選択と集中を勘案する必要があるのではないだろうか．例えば，業績的に秀でている学科等では，研究も含めた学問を展開して，学校のプレゼンスを高める役割を果たすように進化していくことが望まれる．そのためにも，学校の周知度調査等を通じて，学科の評価・評判を収集するためのアンケート調査等の分析を行い，それに基づいた次なる一手を講じるなどの経営戦略が求められるのではないだろうか．	3.6
	谷川陽一	4	教育理念を基盤としたスクールミッション（教育目標や教育ビジョン）を、日常的に教職員や学生に浸透するような教育環境づくりに繋げているとのことであり評価できる。 どのような方法においてこれらの実践や周知を図っているか興味があります。行事での伝達、教室掲示されているとのことですが、更に具体的な方法について、ご教示いたいただくことを希望します。	
	甲山博美	4	理念等を達成するための事業計画が定められ、適切な学校運営ができている。	
	大森弘太郎	4	学校運営に関して常に新しい時代の流れの風を入れて改革を行ってきている。 運営に於いても、スピードと責任を大切にしており 引き続き今後の課題でもあるようで より良い組織運営になることと思う。	

基準３．教育活動				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.5	西原達次	3	「現在の取組状況」の記載が学科によって視点が異なっているが，これは，学科の評価者のチェックポイントが統一されていないことによるものと思われる．そこで，学校の基準に照らした評価を自己点検評価書に基づいて行うにあたり，学科間の記載を揃えることを提案する． 　現に，今回の評価書では，これまで以上に，デュプロマポリシーとカリキュラムポリシーを軸に評定している学科も多くなっていることから，FDといったような形で，学科の意識を統一する試みをしてみてはいかがだろうか．	3.5
	谷川陽一	4	目標の設定においては各学科とも教育課程の編成方針、実施方法を文書化しており評価できる。しかし、シラバスを作成してそれを学生に浸透させることが最も難しいこととなる。 そのため、習熟度（学習到達レベル）が学生間によって異なる場合があることも課題として明記されている学科もある。 今後の方策として、どのような方法によりこのことを改善して行くのか今後の課題であると考える。	
	甲山博美	4	各学科において熱心に教育活動に取り組んでいる。	
	大森弘太郎	3	鍼灸学科では、学生の学習レベルを上げることに関して改善なども必要と考えているようで、鍼灸学科の国家試験の合格率は97%、進学率は77%の数値の中での判断だとも思う。また他の学科ではそれ以上、それ以下での数字の中で 現状のままで問題ない学科もあるようだし、改善を考えている学科もあるようだ、教員の先生方の中でも課題のばらつきを感じた。 すべてを同じ基準にすることは大変なことかも知れないが、人事考課の中でも基準の統一は重要なことだとも思っている 職業実践教育の視点、ここの評価は、将来のキャリアビジョン 資格習得のモチベーションに関係していくのではないだろうかとも感じている。 生徒と教員　教員と教員同士の接触や評価なども必要を感じているようだ	

基準４．学修成果				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.3	西原達次	3	配付資料本編の「生涯スポーツトレーナー介護福祉学科・小項目4-14-1における現状の取組状況と別添資料「令和3年度卒業生国家試験合格状況，その他の学生状況」の介護福祉の数値データとの間に大きな乖離があり，異なる数値が示されているので，この点について，説明していただきたい.	3.4
	谷川陽一	3	高等学校から見た、専門学校の優位性は、大学や短期大学では正課の講義では実施することが難しい資格取得等に対する取組に特化できることである。そのため、学生や保護者等及び高等学校教職員が注視しているのは合格率や指導内容、そして就職率や就職先である。 専門領域における資格取得や免許取得は、目標設定されており、自己評価では目標達成に向け、学科長の熱意が感じられる。 国家試験や資格取得の模試の結果等を踏まえた教職員の検討会や学習会等を充実させ、目標達成をめざしてほしい。	
	甲山博美	4	各学科とも相対的に高い就職率である。就職率100％を目指して欲しい。	
	大森弘太郎	3	卒業後の生徒との交流や不合格者との連絡など 私も所属している同窓会との連携など より効率的に出来るように改善が必要とも感じている せっかくある組織なのでより効果的に 生徒と教員・卒業生と学校の輪を広げていければと思う。	

基準５．学生支援				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.3	西原達次	3	キャリアサポート及びカウンセリングの取組に関して，学科によって温度差が感じられる．この点ついての実情と今後の改善についてお伺いしたい．	3.4
	谷川陽一	3	面倒見の良い学校は、以下の取組を組織的に実施している。 （１）複数回の入学前の事前指導 （２）入学後の個別対応（学習・心のケア等） （３）就職活動時の的確な進路指導 （４）卒業後のアフターフォロー これらの取組を出来ているかが、学生や保護者等及び高等学校からの評価に繋がる。 特に（４）卒業後のアフターフォロー（就職後の状況把握、悩み相談等）は重要である。学校としては難しい取組ではあることは承知しているが、貴校の発展のため是非ともお願いしたい。	
	甲山博美	3	各学科とも中途退学者が目立ちます。中途退学者０名を目指す策を講じるべきである。	
	大森弘太郎	4	学生の将来の就職先の支援など学内のキャリアサポートで宣伝できていると思う反面、コロナ禍でキャリアサポートにアクセス出来ない 学生などは就職先の剪定に制限がかかっているとも感じた。 臨床実習などいろいろな治療院・病院を見学することで 学生側からの将来の就職先の情報も大きく見えると思う なので、臨床実習の提携先など拡張も引き続き必要だなと感じた また、学校側として就職説明会や入学説明会などを合同でする動きなどは画期的など感じる。 保護者会・保護者面談などの取り組みも良いと思う。	

基準６．教育環境				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.5	西原達次	3	COVID-19禍中の教育全般及び留学生の出入国や修学全般にかかる影響についてお伺いしたい.	3.3
	谷川陽一	4	高校の卒業生が専門学校に進学し、後輩達に講話等をする際、学外実習やインターンシップでの体験を最も多く報告する。自己の夢である将来の職業に関する取組を最も重要視していることが感じられる。 そのため、更に質の高い実習先の確保に努めてほしい。 教育施設、教育設備、教育用具等は法令に基づいて整備を図っているとのことで評価できる。医療系の専門学校であり、更に安心・安全な学校環境づくりに尽力してほしい。	
	甲山博美	3	学外実習やインターンシップを実施していない学科が見受けられる。職業現場における実習を交えた職業教育が理想的ではないかと考える。	
	大森弘太郎	4	施設・設備に関して申し分ないと判断する。 学科により教育環境に関して課題も上げていただいている点で 学部による参加の工夫なども上げているので、オンラインなども活用して環境が整っていけたらいいと思う。 鍼灸学科の課題の中で企業への研修が上がっていた 柔整学科などは臨床実習に単位数なども増えて学生も、現場に出ることが以前より増えたと思う、実際に臨床実習（外部企業）に出ることで、学生の視野も広がってくるので、可能であれば 鍼灸学科も単位には関係ないかもしれないが、希望者なども募って外部企業での臨床実習などを実施することも 学生にとっても、企業にとっても学校の魅力的にも 良いのかなと感じた。また他の学科に関しても 実現出来たらと感じました。	

基準７．学生の募集と受入れ				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
4.0	西原達次	4	少子化による入学者世代の人口減少で，入学志願者確保が困難になっているなかであるが，今年度の報告書をみる限りでは健闘されていると判断した.	4.0
	谷川陽一	4	文化祭などにおいて、貴校の学生による医療関係のコーナーでの連携を行っており、生徒や保護者等への認知度は高い。これらの取組を他校でも積極的に推進することで学生募集に繋がると考える。 また、医療関係の実際に触れることが少ない「医療オリンピック」などのイベントも効果的である。	
	甲山博美	4	過去の実績を管理しながら、規則に基づいた広報活動が行われている。	
	大森弘太郎	4	学生が将来なりたい職業を描く場の一つに 実際にそこの病院・歯科・治療院・施設で受けた体験や そこの施設で働いている方達の声にもよって職業の選択をしていると感じている。そんな中で、実際に施設の職員さんが九州医療スポーツ専門学校に入学を促す事を多くできたらまた、九州医療スポーツ専門学校への入学にも繋がると感じる。 なので、学生を受け入れた企業などにも九州医療スポーツ専門学校との交流の場が増えていけたら良いと感じた。 卒業生の活躍（プロスポーツ選手）との関わりの発信も 若い世代の刺激になってよいと改めて感じた。	

基準８．財　務				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
4.0	西原達次	4	適正に自己評価報告書は記載されていると判断した.	3.0
	谷川陽一	4	今後も積極的な情報公開をめざしているとのことでありホームページでの公開など、適切な対応を期待する。	
	甲山博美	4	適切な運営が図られている。	
	大森弘太郎	4	問題ないと思われる。	

基準９．法令等の遵守				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
4.0	西原達次	4	特に指摘する点は見当たらなかった.	3.9
	谷川陽一	4	基準９法令等の遵守９－３２において、適正に行われていることを確認できた。	
	甲山博美	4	法令等の遵守がなされている。	
	大森弘太郎	4	社内のセキュリティーや公人情報などの管理など法令に基づき対応できていると思う、ITなどの更新などにも意識をも向けているところも安心できる。 今後も引き続き学生個人の膨大な情報を扱っていくと思うので 引き続き法令に基づき管理体制の強化が必要と判断する。	

基準10．社会貢献・地域貢献				
平均評定	委員氏名	評定	意見	自己評価
3.3	西原達次	3	学校としては，まずは優秀な医療人等を育成し，社会に良き人財を輩出することをもって，継続した貢献活動をお願いしたい．あわせて，社会のスポーツ・医療を取り巻く環境が大きく変化しているなかで，各学科の卒業生を追跡調査して，そのデータ分析をもって各学科の教育水準を見極めて，社会・地域に貢献する活動を推進していただきたい．	3.3
	谷川陽一	3	基準10　社会貢献・地域貢献１０－３６－２の自己評価２は、残念である。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の影響であると理解しているが、感染症終息後は積極的な地域貢献の推進に期待する。 国際交流については「海外との教育機関との国際交流の推進に関する方針」を定めており、それに即して各取組を積極的に推進していることが理解できた。	
	甲山博美	4	国際交流やボランティア活動に取り組んでいる。	
	大森弘太郎	3	社会貢献活や地域貢献活動など、学校の活動をより多くの人に宣伝できる機会なども必要と感じた。 貢献出来ている対象者・対象分野に該当し在籍している人には その内容などが認知されていると思うが、それ以外にもっと 貢献の発信ができたらと思う。 貢献している分野が限定的なのかもしれない	

総　括		
	委員氏名	意見
	西原達次	今年度の評価で，貴学の自己点検評価活動が，3つのポリシー（デュプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシー）を軸に安定した形で教育改善に活用されていることを確認することができました．一方，学科によっては，小項目のチェックポイントの記載において，ネガティブな評価が散見されました．おそらく，このような傾向は経年的にも同様ではないかということも懸念しているところです． 現在，学校法人国際学園九州医療スポーツ専門学校がパラメディカル・パラデンタルスタッフ育成にとどまらず，「国民の0歳から100歳までの健康な生活に寄与し，社会に貢献できる人材の育成を目指す」という教育理念のもと，多様な知識・技能・人間力を有する人材育成を展開していることは，今回の評価で実感できました． そこで，次なるステップとして，優れた学科を軸に貴学の強みを伸ばし，確固とした学問にまで高めた教育体系へと深化し，一方で，社会に健康増進という形で幅広く活躍する人材を養成する学科に対しては，実践的能力の向上を生涯研修という形で展開し，その2つが融合することで，国際学園のゼロ100プロジェクトの教育機関が完成するという戦略が専門学校から大学を目指すといったときなどの分岐点でのコアコンピテンスになるのではないでしょうか．
	谷川陽一	全体を通して、貴校の教育理念や教育目標を達成するため体系的・組織的に取り組んでいることが理解できました。 多様な医療系学科を設置している貴校は、北九州地域に有用な人材を輩出する使命があると考えます。 今後も国家資格や資格取得の合格率上昇や就職率１００％をめざすことや、各学科の教育内容の平準化を図るなど、更なる改善を重ね地元北九州が健康で安全・安心な街となり、市民の幸福に寄与していただくことを期待します。
	甲山博美	法令を遵守した上で、適切な学校運営が図られている。中途退学者を０にするとともに、国家試験合格率100％を目指して頂きたい。
	大森弘太郎	例年この学校評価委員を担当させて貰っておりますが 年数と共に先生方・職員方の意識もより良くなっていると思います。 生徒に対する思い考え、学校をよりよりものにしていくために 学校が組織としてチームとして発展していっていると感じました。 教育理念の『士魂医才』を 実現する学校だと感じております。 ありがとうございました。